

平成29年度コーディネーター養成講座 「振り返り」(一般受講者)のまとめ

開催日時：2018年2月17日(土) 14時30分～15時40分

会場：海老名市総合福祉会館、1階、元気クラブ室

参加者：一般受講者11名、危機管理課、海老名災ボラ会員など

司会進行：海老名災ボラ福田副代表

(1) 午前中の講義に関する質問と意見

① 海老名市危機管理課への質問

【質問1】 受講者：海老名市の災害時における対応について、説明(レジュメ)は良かったと思う。神奈川県や他市のものをモデルにしたのか、自分(危機管理課)で考えたのか。危機管理課の職員数は何人か？

(回答1) 危機管理課職員：さまざまな資料を参考にして作成した。職員15名でやっている。

【質問2】 海老名市の所有する災害用の資機材はどれくらいあるのか。

(回答2) 危機管理課職員：いろいろな種類があるが、合計で150点くらいあると思う。

【質問3】 台風21号の時に、10月21日(日)の12時に海老名市内全域に「避難準備・高齢者等避難開始」を発令。23日(月)3時40分に海老名市内の土砂災害警戒地域に「避難勧告」を発令。これは発令のタイミングとしては良かったと考えているか。

(回答3) 危機管理課職員：適切なタイミングだと考えている。

② 海老名災ボラへの質問

【質問4】 受講者：災ボラの会員は何名位、いるのか？

(回答4) 災ボラ(橋本代表)：会員には個人会員、賛助会員、団体会員と3種類があるが、合計すると約40人である。

【質問5】 受講者：本日、配布された入会案内書に、個人会員2000円/年、賛助館員1000円/年と書いてあるが、どう違うのか。個人会員になると、災ボラの活動に参加しなければならないのか。

(回答5) 災ボラ橋本代表：個人会員は、海老名災害ボラの実施するさまざまな活動に参加できる会員である。賛助会員は海老名災ボラの趣旨に賛同し活動に協力・支援する会員である。

海老名災害ボラは、ボランティアとしての「自主性・自発性」を尊重している。海老名災ボラの様々な活動への参加が強制されることはない。(活動の日時や内容によっては、個人の都合で参加できないことがある。)

【質問6】 受講者：本日、配布された入会案内書に、月1回の定例会と書かれているが、どんなことをするのか？

(回答6) 災ボラ橋本代表：前月の活動報告と振り返り、今後の活動予定とその実施方法などを話し合っている。

(2) 午後の救援センター立上げ訓練に関する質問・意見・感想

(司会) 災ボラ会員が各グループに付いて受講者のサポートをしましたが、説明不足などもあったと思います。皆さんが疑問に思ったことがありましたら、質問・意見をお願いします。

① 資機材の貸し出しに関する質問と回答のまとめ

【意見1】 受講者：当日、「資機材貸出・返却記録簿」を渡され、「作業用具の種類と数をリーダーが記入して欲しい」と言われたが、それはおかしいのではないか。資機材係から指示があるべきだと思う。

（回答1） 災ボラ（橋本代表）：ご指摘の通りです。ボランティア受け入れ側（スタッフ）の方が現場の状況や作業内容をよく知っているはずなので、スタッフ（資機材）側から指示があるべきだと思います。

（回答2） 災ボラ（福田副代表）「ボランティア求人票」や「ボランティア派遣・活動報告書」の作業内容を読めば必要な資機材（作業用具）は分かるだろうと思って、今回の立ち上げ訓練で、必要な作業用具の種類や数について、ボランティア・リーダーに記入を依頼しました。東日本大震災で私のボランティア活動体験では、ボランティアが救援ボランティアセンターのスタッフから現場での作業内容を「聴いて」、ボランティアが持っていない作業用具の貸出を資機材係に要望したものです。

（後日の補足2）「海老名市災害救援ボランティアセンター」マニュアルでは、「ボランティア求人票」及び「ボランティア派遣・活動報告書」の中段の作業用具欄に、必要な用具の名称を記入するような書式になっていますが、2月17日に受講者に配布した上記の帳票には、作業用具の記載が無かったので、急遽、その現地に行くボランティア・リーダーに必要な作業用具の記載を頼むことにしました。

【意見2】 受講者：私は、東日本大震災の被災地の現場に何回も通いました。必要な資機材（作業用具）については、救援ボランティアセンターで判断してもらいたいと思います。しかし、何回も現場で活動すると、自分にとって「使いやすい作業用具」が分かってくるので自分で選ぶこともありました。

（回答3） 災ボラ（福田）：関連として、ボランティアの個人装備や資機材（作業用具）について、説明します。東日本大震災当時、神奈川災ボラでは、ボランティアの「個人装備」（安全靴、革手袋、目を保護するゴーグル、ヘルメット、水や食糧など）は、ボランティアが持って行くことを原則にしました。

ボランティア団体がバスで来る例が多かったので、団体が「スコップ」・「土のう袋」・掃除用具などをバスに積んで被災地に行く例が多かった。バスにはボランティア活動経験者も少なくなかったので、被災現場での作業内容を聞けば、どのような資機材が必要か大体は分かったので、自分たちに不足する資機材（作業用具）を被災地「救援ボランティアセンター」から借りました。

別な事例として、側溝の清掃作業で、重いコンクリート製の蓋を持ち上げる用具を使って欲しいと被災地のセンターで言われたので、その使い方を当日資機材係に聴いて使いました。

（後日の補足3） 災ボラ（福田）：「被災地の救援ボランティアセンター」の負担を少しでも軽減するように、「支援する団体側が行った配慮」であると思う。団体での被災地支援活動では、被災地の救援ボランティアセンターと事前に連絡を取り、被災現場の状況や作業内容を聴き、自分たちで用意できる資機材をバスに積み、不足する資機材を借りるようにしていた。被災地の救援ボランティアセンターから借りるものを必要最小限にしたものと思います。

（後日の補足4） 災ボラ（福田）：資機材係の活動としては、ボランティアから提出された資機材の種類と数量についてチェックするだけでなく、作業用具の円滑で安全な使い方をもボランティアに説明することも必要だと思います。

（当日の説明が分かりにくかったようなので、「後日の補足」を追加しました。）

② 本日の訓練に対する感想など

(受講者 A) こうした災害訓練に初めて参加しました。今日の経験を JC の仲間に伝えたい。

(受講者 B) 今日、参加して良い経験になりました。海老名でも、こんなにボランティア活動をしている人たちがいるとは思わなかった。

(受講者 C) 初めて参加したが良い経験となった。非常時にどうやって多くのボランティアを呼び込むのかが課題なのではないかと思う。

(受講者 D) 私は民生委員として自治会の防災訓練に参加したことがありますが、自治会の防災訓練とはかなり違う内容なので、不安になった。

(災ボラ会員) 何年か前に海老名災ボラの会員となっていたが、日常活動にはほとんど参加していなかった。そのため、災害に関する情報が入らなかった。午前中の講義で、市行政や社協の動きが分かったので、良い勉強になった。

(災ボラ橋本代表) 午後の立上げ訓練について、何を目的としているのか、何を身につけたら良いのか、参加した皆さんがよくわからなかったのではないかと。「海老名市救援ボランティアセンター・マニュアル」では細かに記載されている。今後、災ボラ会員も含めて、しっかり訓練を重ねる必要があると思う。

(司会) 2018 年 8 月には「ビックレスキューかながわ」(神奈川県主催の災害救援訓練)が海老名市内の会場で実施される予定になっている。その時にも、皆さまの参加・協力をお願いしたい。

(危機管理課) 神奈川県が記者発表をしていないので、この件はここだけの話にしておいてください。

(司会) 海老名市が様々な災害の被災地になった場合、「海老名市救援ボランティアセンター」の運営を支えるスタッフ(特にコーディネーター)が必要になります。自分や家族が大きな被害を受けると、センターのスタッフとして動くことは困難になります。それで、スタッフとして動ける人々を幅広く養成しておく必要があります。それで、こうした養成講座を毎年、実施しています。

海老名災害ボランティアネットワークは、平時においても災害に備えて、様々な活動を行っています。この講習を受講された皆さんが、海老名災害ボランティアネットワークに入会して頂けることを期待しております。

(3) 受講修了証の授与

本日のコーディネーター養成講座を受講した 11 名(一般受講者)の方に、海老名災ボラ橋本代表から、受講修了書を手渡しました。

以上